

第65回全油販連定時総会開催

日時 平成30年10月23日（金）15:00～18:30

場所 ロイヤルパークホテル 有明の間・東雲の間

総会では29年度事業・決算報告および30年度事業・予算計画が原案通り承認された。任期満了に伴う役員改選で宇田川公喜会長（㈱宇田川商店社長）が再選され、副会長には館野洋一郎（㈱タテノコーポレーション社長、東京油問屋市場理事長）が新たに選出、金田雅律（㈱マスキチ社長）、木村顕治（㈱マルキチ社長、関西油脂連合会会長）、太田健介（太田油脂㈱社長、愛知県油脂卸協同組合理事長）が再選された。

総会后、全油販連宇田川会長を講師に「油売りの来し方行く末」をテーマとした講演会が行なわれ、あぶらの語源・日本での搾油の始まり・中世以前の油屋・灯明油としての広がり・大坂の油屋・大坂の油問屋の成立・東京油問屋市場の前身誕生・灯火油としての油・明治大正の油問屋・食用油としての植物油・大豆搾油の始まり・昭和の油問屋・全油販連の設立等についてわかりやすく説明した。

引き続き、農林水産省食料産業局食品製造課 東野昭浩課長による「食品産業戦略」について講話が行なわれ、「食品製造業の現状は事業所数と従業員数が第1位で、出荷額と付加価値額は第2位で日本を代表する製造業だ。業種としての内部環境の強みは、生産工程と品質、商品開発力、包装・充填技術、物流網、ブランド力で、弱みは低い付加価値、低い労働生産性、低い給与、低い設備投資、低い海外事業比率だ。また「機会」としては日本食への関心、機能性への世界的関心、電子商取引などの物流の多様化が挙げられ、「脅威」としては、国内市場の縮小、人材確保、規格・認証、安全への関心、ESG、災害時の持続的供給、原材料争奪の激化が考えられる。食品産業戦略の柱としているのが、需要を引き出す価値創造（付加価値3割増）、海外市場開拓（海外売上3割増）、労働生産性の向上（労働生産性3割増）でそのためには戦略の基盤と危機管理・環境整備が重要」と説明があった。



宇田川会長の講演



農水省・東野課長の講話

その後、来賓、賛助会員、会員各社をまじえ行なわれた懇親パーティで宇田川会長が「昭和28年の3月2日に全国油脂販売業者連合会が設立され、今年で65年となる。先程の講演会で油の歴史を話したが、今年は全油販連の企画委員会が主体となって、油を勉強する会（油脂未来セミナー）を東京・愛知・大阪で開催した。今後も実施して行く予定でありメーカーさんにご協力いただくこともあると思うので、よろしくお願ひしたい。先ほど、最後に口銭が少ないという話をし、農水省東野課長の講話においても食品製造業の営業利益率が低いという話があったが、あまり儲からないというのは昔からのことでもある。しかし、地震があつて、ものが届かないと非常に困るわけで（食品は）一番必要なものである。従つて、そういった価値に見合った価格で売買されるべきだと思つている。今後とも油のことをいろいろ勉強することによって、皆さまとともに高い志と意識を持つて製造・販売に邁進して行きたいと思つている」と挨拶をした。

引き続き、農水省東野昭浩課長より「遺伝子組み換え食品の表示制度については、消費者庁で検討会が開かれている。今のところは、これまで通り検出できないものは表示しないという方向になっている。農水省としても注視していきたい。皆さま方の気持ちを代弁し、しっかり言うべきことは言つていきたい。今後とも一緒に、業界発展のために力を合わせていきたい」と来賓挨拶をいただいた。

さらに、一般社団法人日本植物油協会の八馬史尚会長（㈱J・オイルミルズ社長）より「今年を振り返るには少々早い時期ではあるが、改めてこれまで10ヶ月間を振り返ると、もはや毎年のこととなつたが『異常』と云う名のつく気象が続いていることに加え、今年には地震もあつた。夏の酷暑、7月の西日本豪雨、台風21号、加えて大阪府北部地震、北海道胆振東部地震もあり、被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げ1日も早い復旧、復興を祈念申し上げます。（全油販連の）金田康男前副会長の平成30年はいかなる年か、という今年の全油販連ニュース1号を改めて拝読すると。九紫火星、戊戌、平地木と記されていた。この戊戌、平地木という年は1958年の狩野川台風がまさにこの年であり、この年はこういうことが起こるのだということを感じた。いずれにしても、こういった気象変化、異常気象の原因と言われているのは、諸説あるが地球温暖化でCO₂の排出ということである。昨今、ESG、SDGsという言葉もあるが、企業活動の中でもこうしたことにどう対処していくのか、さらにはプラスチックの海洋汚染の問題も言われている。改めてこうしたことへの取り組みを各社で、あるいは業界としてどうしていくのか、感じる事が重要であると思う。その一方では米中貿易戦争と言われる状況、これは経済摩擦と言うよりも、もはや新たな覇権争いとする向きが多いと思うが、国際情勢が為替、原料、ミール相場に与える影響もよく注視していく必要がある。市場環境で言えば小売業界でもドラッグストアの台頭であつたり、ECの拡大、流通の

再編を含めて大きな変化が大変早く進んでいる。また、外食においても人材獲得の難しさ、食品業界全体では物流費の上昇等さまざまな課題が存在している。昨年と比較すると油脂コストは良好な環境が継続しているが、全体の状況、および来年の消費税増税ということも踏まえた中で、楽観できる状況になく、こうした厳しい環境下にあって、どうやってお客さまに喜んでいただけるのか、お役に立つ付加価値を創造していけるのか、ということをお我々業界として、あるいは製販の枠組を超えて繋がって知恵を出し、ともに発展する道をつくっていく必要があるかと思う」と来賓挨拶をいただいた。

懇親パーティは、木村副会長の乾杯の挨拶で和やかに進行し歓談後、太田副会長の油締めで散会した。



宇田川会長の挨拶



農水省 東野課長の挨拶



日油協 八馬会長の挨拶



木村副会長の乾杯挨拶

(写真提供 油脂特報社)